

# すくわくポータル



## 令和6年度 テーマ:音

### 1歳児 楽器作り



### 活動内容

空のペットボトルに音の小さい素材から順に入れていき、素材ごとの音色や音の大きさの違いを感じる。音楽に合わせて完成したマラカスを振って楽しむ。

### 子どもたちの様子

ペットボトルを振ったり傾けて音が鳴ることに気が付くと「カラカラしてるね」などの声が聞こえ、振ることを楽しんでた。やわらかく音の小さな素材から入れていくことで、音の違いを感じることができた。

### 2歳児 おと作り



### 活動内容

並べたミュージックパットとラバーリングでケンパーをしながらサーキットをし、ミュージックパットから出る音の違いを楽しんだ。  
音を順番に鳴らしたりしながらかえるのうたを奏で楽しんだ。

### 子どもたちの様子

サーキットコースを進むと音が鳴ることを知り、驚きながらも楽しんでた。片足で乗るより、ジャンプをして飛び乗った方が大きな音が鳴ることに気づいたり、逆に静かに乗ると音が鳴らないことを不思議がる姿もあった。2つ重ねて音を出してみたり工夫する姿も見られていた。

### 3歳児 楽器当てクイズ

#### 活動内容

いろいろな楽器に触れてみて、音に親しむ  
楽器の音あてクイズをする。



#### 子どもたちの様子

いろいろな楽器に触れる姿が見られ、音を一音ずつ出すと自信満々に「〇〇！」と答える姿が見られた。

子ども達が楽器を選びクイズを出し、他の子ども達に当ててもらおう活動を行うと、各々好きな楽器を選び、音を鳴らしていた。音の違いをよくわかっていて、似た音でも鳴り方で判断する姿も見られた。

### 4歳児 糸電話あそび

#### 活動内容

糸電話を制作して、糸電話を使って声が伝わることを体験  
長い糸でも声が届くか、試してみた



#### 子どもたちの様子

保育者が作っていると興味を持ち、糸電話づくりがスタート！

作った糸電話は廊下で試すようにし、友だち同士で糸電話を試し合った。

糸がたゆんでいると声が届かないこと、糸を触ると聴こえないことを、使いながら体感していった。  
廊下の端から端までの長い糸電話では、声が届いて嬉しそうにし、楽しんでいた。

### 5歳児 オーシャンドラム

#### 活動内容

好きな素材の箱を選び、ビーズの形のや量も考えて取り、オーシャンドラムを作った。  
音のなり方や、傾け方を工夫しながら音を出すことを楽しみ、素材やビーズの選び方によって、音が違うことに気付く。



#### 子どもたちの様子

リトミックで聞いた時の話をすると覚えている児が多く、箱を揺らす動作をしたり、「ざざざ〜ざざざ〜だったよね」などと音を表現する。

箱が同じでもビーズの量を変えることで、音の違いを感じていた。

素材違いの箱の音比べをし、変化や違いを友だちや保育者に自分の言葉で伝えることを活発に行っていた。

ティッシュケースはより音がリアルなることを発見し、友だちの所を周り音を聞かせてあげていた。



## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1326
施設名	江戸川中央ちとせ保育園
施設所在地	江戸川区中央4丁目19-25
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会

### 1. 活動のテーマ おと

#### <テーマの設定理由>

今まで打楽器が多く園にあり、音階を知れる楽器が少ないこと、乳児クラスでの楽器に触れる機会が少ないことから、子どもたちにたくさんの音色に親しんで欲しいと思ったこと。また小さいクラスは楽器あそびを通して音に興味を持って欲しいと思ったから。

### 2. 活動スケジュール

1歳児～5歳児で音遊びを行い、楽器に触れたり、音階を知り、楽器の音に親しみを持って触れていた。

楽器に親しみをもちつ中で、興味が惹かれた楽器で発表会の合奏に使用し、曲を演奏をした。また自然物を使った楽器作りも行った。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 【準備した素材や道具】

木琴、鉄琴、アコーディオン、ミュージックパット、マラカス、すず、カスタネットなどの楽器

#### 【環境の設定】

子どもたちが親しみが持てるように、保育者が楽しんで音を出すようにした。また、興味をもった児から楽器に触れる機会を作っていた。

### 4. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・ミュージックパットなどに触れ、音階を知った。
- ・木琴・鉄琴・アコーディオン・太鼓などの楽器の音に親しみをもちつ触れていた。
- ・自然物を使った楽器作りを行い、歌に合わせて合奏をした。

#### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・マラカスづくりではどんぐりを入れるだけで満足している姿が見られたので、保育者がさりげなくペットボトルを振ったり傾けて音が鳴ることに気付けるよう促していくと、音が鳴ることに気が付き「カラカラしてるね」などの声が聞こえ、振ることを楽しんでた。やわらかく音の小さな素材から入れていくことで、音の違いを感じることができていた。

・ミュージックパットに乗ったり押したりすると音がなる事は伝えず、作られたサーキットコースを進むと音が鳴ることを知り、驚きながらも楽しんでた。

・片足で乗るより、ジャンプをして飛び乗った方が大きな音が鳴ることに気づいたり、逆に静かに乗ると音が鳴らないことを不思議がる姿もあった。2つ重ねて音を出してみたり工夫する姿も見られていた。

### 5. 振り返り

#### <振り返りによって得た先生の気づき>

・マラカスづくりでは、素材を一度に全て出すのではなく、音の小さな順に出していくことで音の違いを感じることができた。又、敢えて音のほとんど出ないポンポンを用意したことで、その後のどんぐりやビーズなどの硬い素材の音が強調されて良かった。

・ミュージックパットでは、初めに音階順に並べてみたが、最初の段階でバラバラに室内に置いていたら、音階、音の違いなどへの気づきや発見、伝えることもしやすかったのではないかと感じた。また、たくさんの音が鳴ることで楽しい雰囲気になり自然と笑顔が増えていたり、音を鳴らすことに夢中になっていたり子どもが興味を持つ活動をさらに考えていくきっかけになった。